

平成 30 年度 第 3 回京都府立図書館協議会 議事要旨

1 開催日時

平成 31 年 3 月 14 日（木）午前 10 時から 12 時まで

2 場所

京都府立図書館

3 出席者

原田隆史会長、明致親吾委員、小川雅史委員、桂まに子委員、潮江宏三委員、永田紅委員、松下亜樹子委員、村川広美委員、矢納佳実委員

4 会議の内容

- (1) 平成 30 年度第 2 回協議会の議事録について
- (2) 岡崎での開館 110 周年事業について
- (3) 平成 30 年度取組状況について
- (4) 平成 31 年度事業計画（案）について
- (5) 府内公立図書館の状況について
- (6) 会議のまとめと 2 年間の感想
- (7) 今後のスケジュール等

5 協議事項

- (1) 平成 30 年度第 2 回協議会の議事録について
 - 事務局から概要について資料に基づき説明
- (2) 岡崎での開館 110 周年事業について
 - 事務局から概要について資料に基づき説明
 - 展示見学
- (3) 平成 30 年度取組状況について
 - 事務局から概要について資料に基づき説明
 - 原田会長から産学官プロジェクトの経過について説明
(主な説明)
 - ・ 京都府立図書館総合目録（K-libnet）の書誌データの中で、同じ書籍なのに異なる書籍と判断される可能性がある書籍（いわゆる書誌割れ）や異なる書籍なのに同じ書籍と判断される疑いのある図書等の組み合わせ約 8,000 組についてクラウドソーシングによる突合を行った。
 - ・ 判断が一致しなかった 700 組を超える書籍について、AI で突合・判断するためのルール、外れる場合の「判断の揺れ」とでもいべきパターンを研究しており、概ね解明できるなどプロジェクトは相当進展している。
 - ・ AI で正確に突合・判断できるルールをプログラム化するためには、平成 31 年度にかけても研究を継続したいと考えており、市町村図書館に負担をかけないよう進めるのでご理解賜りたい。

○ 委員意見

- ・ 地元の図書館まで講師を派遣いただく出前研修は非常によい取組である。
- ・ 学校支援セット貸出について館長自ら校長会等において説明されるなどしっかりPRされている。現場としてもしっかり連携を図っていききたい。
- ・ 学校支援セットは高等学校においても非常に活用されている。総合的な学習の時間や、今後本格実施となる新学習指導要領による「主体的・対話的で深い学び」を先取りした授業展開もあることから、学校現場における利活用は今後も増えていくと思う。校長会等でしっかり情報提供いただければ学校現場にとってもありがたい。
- ・ SNSの利用を検討されていたり、大学生のイベントへの積極的な協力など、大学生が参加する場が増えているのが印象的である。
- ・ サービスデザインチームが協力する事業への参加人数はどのくらいか。
→ 参加人数については主催団体が把握しており当館では把握していない。図書の貸出やレファレンスなど積極的に協力しているところである。
- ・ SNSを使った情報発信の試行はいつから始めるのか。
→ 情報発信に特化する方向で、課題も整理しながら次年度、試行に向けて取り組んでいきたい。
- ・ 広報活動にも大変力を入れられていると思う。府民の興味や関心も多様化する中、確実に効果の出る情報発信は難しい。マスコミへ情報発信しながら、様々なメディアを活用し発信することが必要である。
- ・ 全面改装中の京都市京セラ美術館では2020年3月末にリニューアルオープンする際、話題性のある展覧会が大々的に開催される見込み。しかし、京都市美術館は元々入場料など収入があったことからネーミングライツも実施できたが、図書館は公会計で限られた予算での運営となる。その中で様々な事業を実施されており頼もしい限りである。
- ・ 図書館として実施した方がよいと考える事業を無理のない範囲で実施することが重要。京都市京セラ美術館のリニューアルオープンに向けてもその中で企画されればよい。
- ・ 資料で調べるといふ習慣がどんどん減っており来館者の減少につながっている。書籍・資料を保存し府民に見ていただく機会を確保するという、図書館の本来の仕事はこれからもずっと続くものであり、来館者数が減ったからといって、焦る必要は全くない。これからも頑張っていたきたい。

(4) 平成31年度事業計画(案)について

○ 事務局から概要について資料に基づき説明

○ 委員意見

- ・ ホームページのお知らせ欄は非常に多く更新しているのは評価できるが、情報を整理してアーカイブしていくことでより見やすくなると思う。
- ・ 外国人に対しては、館内のサインを外国語にすることも一つだが、ホームページ等で外国人観光客に向けての図書館のメリットを発信していくことを検討してはどうか。
- ・ サービスデザインチームには図書館のどのような立場の人が運営しているのかといった、チームとしてのイメージを発信されてはどうか。例えば、「このような私たちと一緒にやりましょう」というような発信など可能であれば検討いただき

たい。

- ・ 府立図書館のセンター機能といった役割をもっと発信すればよい。そうすることで府民、市民の方々の評価が高まる。
- ・ 例えば、大学連携においてもすべての大学との連携を目指すのか、又は事業目的に沿った対象を選ぶのかといった、ターゲットを明示してもよい。
- ・ 大学のゼミを図書館で開催することは非常にユニークで面白い取組である。図書館という「場」に来るという体験が重要であり、棚を見て、選んで、借りて、実際読んでみて、という流れがある「場」の存在は安心感がある。更にバックヤードや自動化書庫など普段見ることができない場所を見学できることは、府立図書館を強く印象づけることができると思う。
- ・ 市町村図書館等との連携に関して相互貸借により 10 カ月間で 46,000 冊もの図書が搬送されていることに驚いている。実際にどのように搬送しているのか。
→ 火曜日から金曜日の週 4 日間 2 台の運搬車で府内を巡回している。京都市のブックメール便は週 5 日、府立図書館に来ていただいている。
- ・ 相互貸借の取組を府民・市民にもっと周知できればよいのではないか。例えば、運搬車両に何か府立図書館を想起させるデザインを施すなどして、府立図書館を PR するのもよい。
→ 運搬は業者委託であり運送業者のデザインとならざるを得ない。
→ 府立図書館としてはホームページによる周知に加え、講演会やイベント等の PR チラシを地下鉄の駅などに掲示している。そのチラシを見て、まずは「京都府立図書館が岡崎にある」ということをわかっていただきたいと考えている。

<原田会長 まとめ>

- ・ この 2 年間の取組で、特に様々な活動を充実させていくということについては非常に大きな成果を上げていると思う。発信については府民・市民に伝わるような表現を工夫いただくことは非常に重要であり、一層効果的な見せ方やツールの活用などに取り組んでいただきたい。
- ・ 新しい事業を始めるに当たっては既存事業の統廃合も必要である。
- ・ 図書館の評価指標としてどのようなものがよいのかを含め、今後とも継続して検討を行い、できれば「京都方式」といった形で全国に広がるようなものにしていきたい。

(5) 府内公立図書館の状況について

- 事務局から概要について資料に基づき説明。

(6) 会議のまとめと 2 年間の感想

○ 委員意見

- ・ センター機能としての府立図書館の実現に向けた事業が進んでおり、基本方針に沿った事業計画として評価できる。今後は、市町村立図書館を含めた図書館全体としてみる視点や、書籍離れから書籍に回帰する、回帰を掘り起こすといった視点を今後の計画に反映させてはどうか。
- ・ 読書教育が基本だが、学校は改革がすごく早い。新しい教育に図書館が追いついて新規性や時代を読む目線を大切にしてほしい。
- ・ 働き方改革もいわれる中、図書館としても無理のないようにお願いしたい。

- ・ 評価指標に関して京都方式と呼ばれるようなものを目指したい。
- ・ 入館者数や貸出冊数以外の指標も非常に重要であり、職員の頑張りに応えるようなスタッフ側の部分を評価するような指標が打ち出せないか。それが図書館そのものを評価することでもあると思う。
- ・ 大学のゼミやセミナーでの活用については、大変期待している。
- ・ 講座に参加される方が多いのは図書館のテーマ企画力がとても魅力的だからではないか。
- ・ 事業計画を樹立し成果と課題をしっかりと公表していることは高く評価できる。
- ・ パンフレットやポスターのデザインについては、学生アイデアを出してもらったりなど、若い人と連携していくとよい。
- ・ 他の図書館等と連携を進める際には、それぞれの特殊性を掘り起こしながら連携を進めると魅力の一つになるのではないか。
- ・ 図書館に来て棚の中から本を選ぶというのは図書館ならではの体験であり、原点に戻ったような気持ちになる。講座などをきっかけに、少しでも関わりができると愛着度が増すと思う。
- ・ 来館者数や貸出冊数も気になるころではあるが、そのような数値にあまりとらわれすぎないで、図書館らしく大きく構えて府民や市民に喜んでもらえる運営をしていただきたい。
- ・ 知的な交流の場の創設という点に共感するとともに魅力を感じた。次年度には現在実施されている「子ども食堂」や「子どもの居場所づくり」に取り組みされている団体への本の貸し出しを始められるとのことだが、子どもの貧困はいろいろな体験をする機会が減っているという状況でもあるので、大切な事業であると感じている。
- ・ 市町村図書館や子どもと関わるころへを支援していただけるのはありがたいと思う。学校支援セットについては、更に普及するよう力を入れたいと思っている。
- ・ 府立図書館の取組をもっといろいろな人に、学生に知ってほしいという思いがあった。広報やゼミ、セミナーの誘致、大学との連携、インターンシップの受け入れなどに取り組んでいただければ、どんどん変わっていくのではと思う。

(7) 今後のスケジュール等

- ・ 次年度は、6月頃を目途に第1回の協議会を開催予定
- ・ 公募委員については、4月1日に就任いただくことで京都府教育委員会において議決をいただいた。